

第3回鳴門市地域福祉計画審議会  
議事録

日時：令和4年11月24日（木） 15:00～16:15

場所：うずしお会館2階 第2会議室

出席者：委員15名

白山委員、森委員、藤村委員、吉田委員、益岡委員、松本委員、尾形委員、  
佐藤委員、前田委員、矢野委員、小川委員、川端委員、玉関委員、三宅委員、  
脇委員

事務局：7名 社会福祉課 他

傍聴者：0名

■会議内容

- 1 開会
- 2 議事録署名委員指名
- 3 議事  
第2期鳴門市地域福祉計画素案について
- 4 その他
- 5 今後のスケジュール確認
- 6 閉会

議事 第2期鳴門市地域福祉計画素案について

（事務局）

計画素案説明

（委員長）

骨子から素案になり、各地区のカルテ等を踏まえた上での基本方針、基本目標が具体化されたものが提示されている。今の説明に対してご意見をお願いしたい。

（委員）

地域コミュニティの重要性、また担い手の世代交代を図らなければならない、今後はICT、情報技術を使った地域の課題解決が必要になってくるので、そういうことができる人材を育てていかなければならない。

（委員長）

コミュニティや地域というものは、どのように形成していくか、行政区とどのようにリンクするかということを考える必要がある。

意図的に世代交代をしようとするとう無理がある。自然に世代交代していく地域の方がよ

り完成度が高い。

地域福祉計画の中には、防災や権利擁護が位置付けられている。この課題に対して個人情報という問題がある。その辺りの法曹界の流れとか教えていただきたい。

(委員)

まず地域のコミュニティづくりを考えたときに、既にほとんど無くなっているのでは、と懸念するところで、維持よりも再生という難しい問題があると感じている。

要配慮者の個人情報については、やはり平時において行政から出してもらうのは依然として難しい。

成年後見については、最近は身寄りのない方の後見が増えてきている。ポイントは福祉関係者や行政が何らかの情報を把握していることが多く、その情報をどのように支援に繋げていくのかというのが重要になってきている。

(委員長)

健康に関しては、KDB というシステムに情報がある。個人情報保護法の改正もあって、活用可能な情報が少しずつ変わってきている。ただ、全体のアプローチには使えるが、個々のアプローチに関しては依然として難しいという状況。

(委員)

私の地区の一番の課題は、後継者不足。私も今年で72歳だが、一番年下。そういう状況の中で、どのようにして若い人を取り込んでいけるかが問題。また、新型コロナの影響で7年間続いた行事が、3年間でできていない。学校の行事への参加も無くなった。

座談会の中での意見の一つとして、子ども食堂的なものを開設し、中学校から子ども食堂に手伝いに来てもらう。とにかく、若い人と会える機会をつくりたい。コミュニティが無くなったからこそ、会うことが大事。そこで出会った若い人たちが、後継者に繋がっていくのではないかな。

(委員長)

幼少期に地域から大切にされた子どもは、地域に戻ってくる。子どもに地域に対する愛着度を増すようなことを、皆で一生懸命することで、将来、人が帰ってくるのではないかな。

すぐに結果が見えるものではないが、これからもあきらめずやり続けることがそういう結果に繋がっていくといことを信じるしかない。

(委員)

確かに小さいときに大事にされた人は、大きくなって、街のために帰ってきて、何かしようとか、そういうことを思うのだろう。

本委員会委員は、地域活動されている方たちで、活動のなかで、子どものために何かしようというようなことになれば良い。またそういう行動に対して援助があれば良い。

「施策 7 福祉サービスの適切な利用の促進」とあるが、福祉サービスを知らない人が多い。そういうことを知らせるようなシステムが必要。市の広報とかウェブサイトとかで

は難しい。ボランティアでもいいが、そういうことに対して、市の方で予算をつけてもらいたい。若い人のため、皆公平に使えるようにするためにお願いしたい。

(委員長)

高齢者向けの SNS 教室を介護予防のためにやっているが、連絡ツールとしてはいいが、介護保険の使い方とか、高額療養費の申請の仕方とか、そういう制度を教えるという部分も留めておいてもらいたい。

計画素案内の「鳴門市の多機関の協働による包括的な相談支援体制」部分で、ヤングケアラーの記載が無いので、是非入れていただきたい。

(委員)

人材を育成するのはどうしたらよいか、今の状態ではコミュニティの再構築は難しい。次の年代の人を勧誘して引っ張ってくる。自分が皆を引っ張っていくリーダーシップ教育も必要。そこは自治振興会、自主防災会、婦人会、老人会、地区社協、市社協も一緒になって考えていかないといけない。

(委員長)

世代間の考え方の違いがあり、今の子ども達は外で仲間と何かをすることが無い。スマホの中のコミュニケーションだけで成立するため、地域に引っ張ってくるのは非常に難しい。彼らがそれを必要と実感させるにはどのようにしたらいいのか、各地域団体の会長さん、その下、組織の底辺からアプローチをするリレー方式でやっていくしかないと感じている。どういう仕組みがあればいいのか一緒に考えていきたい。

(委員)

私自身鳴門出身で、子ども会に参加したことは鮮明に覚えている。その時の大人の面々も覚えているし愛着もある。たしかに、何も繋がりがなかった地域には戻らないと思う。

子ども食堂の話があったが、実はそれが一番大事で、高齢者等が集まって連帯し、そこにどのように若い世代を組み込んだ交流の場をつくるかということが重要。

今の若い世代は、ボランティア精神があったり、真面目かつ意欲的で、優しい人が多いように思う。何か助けてほしいなというルートがあれば、結構乗ってくれるような人もいるのではと思う。

(委員)

子ども食堂を始めるきっかけは、小学校の PAT の役員をしていて、子ども達を良く知っているというものであった。現状、PTA 活動にも参加できないぐらい子どもも親も忙しい。ましてや地域活動になると、参加できないという状況の人が多。地域福祉の担い手ということで、世代交代も必要ではあるが、現状としては難しい。子どもの内から、授業や防災教育の一環の中で、福祉教育として少しずつ積み上げていければ、担い手にはなってもらえると感じている。

(委員長)

世代交代をしようということは、結局皆さんは引退しようと思われているが、その意識は変えないといけない。自分は最後までやり抜くという覚悟を持ってこの計画策定活動に参加していただきたい。活動をし続けることを見せていくことが、次の世代を育てます。

今一生懸命働いている若い世代というのは、忙しい。昔みたいに、父親は『仕事』、母親は『家事と育児』という役割はもうない。ということは、子育ては社会がしなければいけない。若い人たちを守るということは、皆さんが自分の健康に気を付けて、そういう人たちを守っていくという気概でやっていただきたい。

(事務局)

今後のスケジュール等説明

閉 会